

第1章

事業概要

- 日本・中国青年親善交流事業の概要



日本・中国青年親善交流事業の概要

1. 経緯及び内容

(1) 経緯

昭和53(1978)年の日中平和友好条約の締結を記念し、昭和54(1979)年度から両国政府が共同して実施。

(2) 内容

日本・中国両国の青年が相互に相手国を訪問し、ディスカッション、政府機関等表敬、施設訪問、文化交流等の活動を行うことにより、両国青年の相互理解と友好の促進を図る。

2. 令和7年度事業の概要

(1) 参加者（日本青年中国派遣及び中国青年日本招へい）

① 日本青年中国派遣

- 団長(1名)
 - 副団長(2名)
 - 渉外(2名)
 - 団員(15名)
- 18歳～30歳の日本参加青年

② 中国青年日本招へい

- 団長(1名)
 - 秘書長(1名)
 - 団員(18名)
- 18歳～30歳の中国参加青年

(2) ディスカッションのテーマ

- ① 新しい時代の働き方
- ② 文化と伝統

(3) 日程及び主な活動

① 事前研修

- 日程 : 令和7年7月10日(木)～12日(土)(3日間)
- 場所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター 等
- 対象 : 日本参加青年
- 主な活動 : テーマ及び中国に関する講義、在京中国大使館訪問、団研修 等

② 出発前研修

- 日程 : 令和7年11月3日(月)(1日間)
- 場所 : 都市センターホテル
- 対象 : 日本参加青年
- 主な活動 : 団研修、渡航に関する説明、壮行会 等

③ 本体プログラム

(1)日本プログラム

- 日程 : 令和7年11月4日(火)～8日(土)(5日間)
- 場所 : 都内(都市センターホテル等)及び埼玉県(川越市等)
- 対象 : 日本参加青年及び中国参加青年
- 主な活動 : ディスカッション、歓迎会、テーマ別関連施設訪問 等

(2)中国プログラム

- 日程 : 令和7年11月9日(日)～13日(木)(5日間)
- 場所 : 浙江省(杭州市、紹興市)
- 対象 : 日本参加青年及び中国参加青年
- 主な活動 : 施設訪問、ディスカッション、成果発表会、歓迎会 等

④ 帰国後研修

- 日程 : 令和7年11月14日(金)(1日間)
- 場所 : 砂防会館
- 対象 : 日本参加青年
- 主な活動 : 団研修、事後活動についての説明、成果発表・解散式 等

(4) 経費負担

① 以下の経費については、原則として日本政府が負担。

- 日本参加青年等(団長等を含む)の日本と中国との間の往復に係る航空運賃
- 日本参加青年等及び中国参加青年等(団長等を含む)の日本国内滞在費(宿泊費、食費、交通費等)等

② 以下の経費については、原則として中国政府が負担。

- 中国参加青年等の中国と日本との間の往復に係る航空運賃
- 日本参加青年等及び中国参加青年等の中国国内滞在費(宿泊費、食費、交通費等)等

第2章

日本参加青年の研修

• 研修日程表



研 修 日 程 表

【事前研修】

研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目
月 日	7月10日(木)	7月11日(金)	7月12日(土)
8:00			
8:30			
9:00		団長・副団長・渉外MTG	チェックアウト
9:30			
10:00		団研修	
10:30			団研修
11:00			
11:30		派遣国に関する講義	
12:00			
12:30	副団長・渉外MTG	昼食	昼食
13:00	参加青年受付		
13:30	開講式		渡航に関する説明
14:00	内閣府からの説明及び オリエンテーション		事後活動について
14:30		中国大使館表敬	閉講式
15:00			参加青年解散
15:30	団研修 (チームビルディング講座 他)		団長・副団長・渉外会議
16:00			
16:30			
17:00	チェックイン	ディスカッション講座	
17:30			
18:00	夕食		
18:30			
19:00	テーマに関する講義	夕食懇談会	
19:30			
20:00			
20:30	団研修	団研修	
21:00			
21:30	自主研修	自主研修	
22:00			

※日程表の空欄は、準備・休憩・移動にかかる時間

【出発前研修】

研修会場：都市センターホテル

第1日目		第2日目／東京プログラム初日	
月日	11月3日(月・祝)		11月4日(火)
8:00			
8:30			
9:00			副団長・渉外MTG
9:30			団研修
10:00			
10:30			
11:00			成果記録の作成について
11:30			
12:00			壮行会
12:30			昼食
13:00			
13:30	受付		団研修
14:00			
14:30	オリエンテーション		
15:00			オリエンテーション
15:30			中国青年団チェックイン
16:00	団研修		都内体験プログラム
16:30			
17:00	渡航に関する説明		
17:30	チェックイン		
18:00			
18:30	夕食	団長・副団長・渉外会議	
19:00			
19:30			
20:00	団研修		
20:30			
21:00			
21:30			
22:00			

【帰国後研修】

研修会場：砂防会館

第1日目		
月日	11月14日(金)	
8:00		
8:30	～8:45 チェックアウト	
9:00		
9:30	団長・副団長・渉外会議	
10:00	団研修	
10:30		成果記録の作成について
11:00		海外旅行保険の申請
11:30	成果発表会	
12:00		
12:30	懇談会	
13:00		
13:30	自己評価会	
14:00		
14:30	事後活動について	
15:00		
15:30	解散式	
16:00	解散	
16:30		
17:00		
17:30		
18:00		
18:30		
19:00		
19:30		
20:00		
20:30		
21:00		
21:30		
22:00		

※日程表の空欄は、準備・休憩・移動にかかる時間

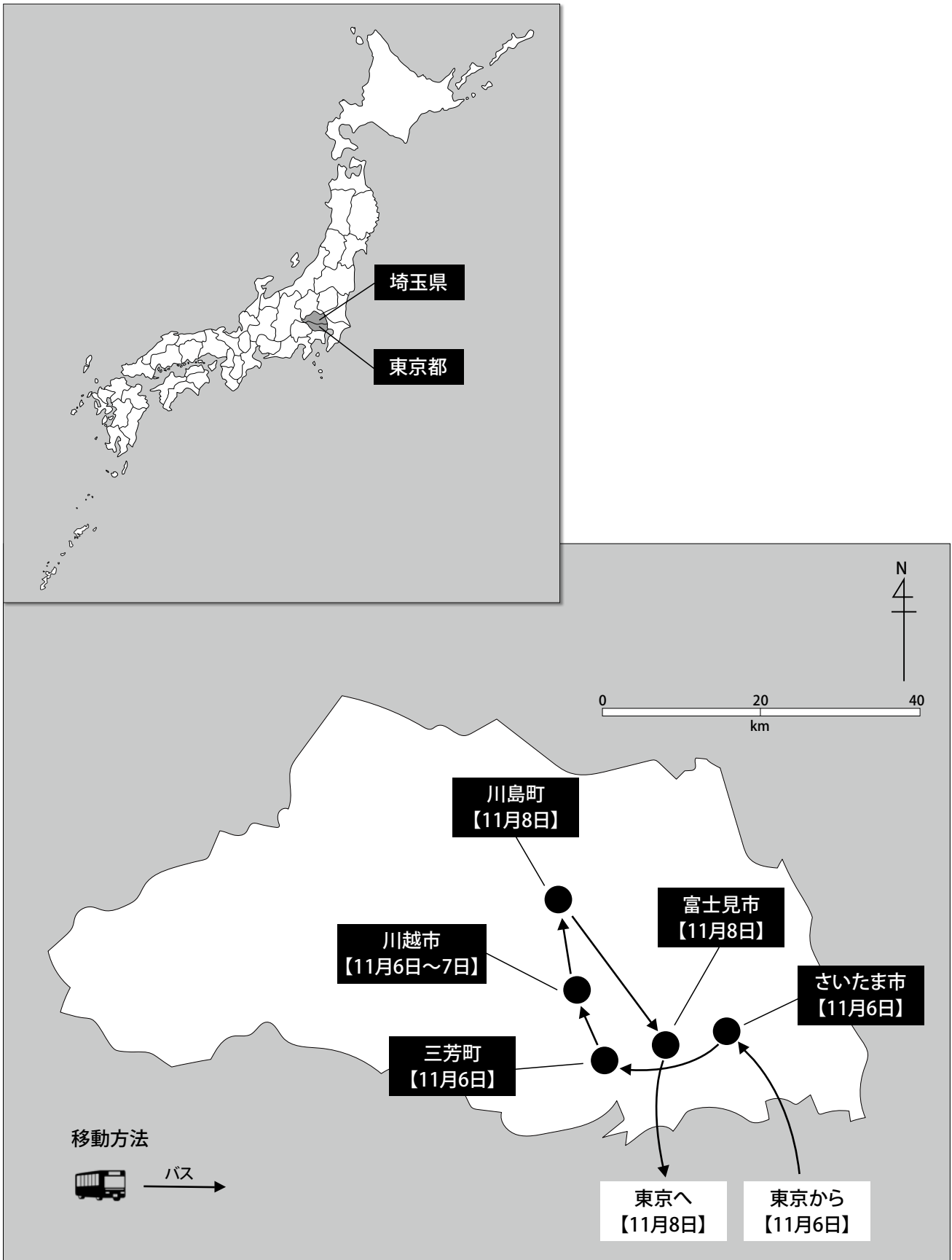
第3章

日本プログラム【東京・埼玉】

- 行動地図
- 行動記録
- 訪問先等一覧



行動地図



行動記録

月日	時間	行動日程	滞在都市
11月3日 (月)	終日	<日本参加青年> 出発前研修	(日本参加青年) 東京
11月4日 (火)	午前・午後 8:05 12:25 15:00-15:30 16:00-20:00	【11/4-8 日本プログラム】 【11/4-5 東京プログラム】 <日本参加青年> 出発前研修 <中国参加青年> 北京発 (CA181) 東京 (羽田) 着 <日本参加青年・中国参加青年> 両国参加青年合流、オリエンテーション (都市センターホテル) 日本青年企画の東京視察 (渋谷・銀座・浅草等) (テーマ:文化と伝統)	
11月5日 (水)	9:00-10:30 10:30-11:00 11:00-11:30 11:30-14:00 14:00-14:30 14:30-16:00 16:30-17:30 17:30-17:50 18:00-20:00	全体基調講演「日中関係の未来—相互理解を深め、ともに平和を築こう」講師:高原明生 先生 (東京大学名誉教授/東京女子大学現代教養学部 特別客員教授) ディスカッション準備 バス移動 <テーマ別施設訪問> テーマ:新しい時代の働き方 株式会社パソナJOB HUB訪問、昼食 ホテルグランドヒル市ヶ谷へバス移動 ディスカッション (テーマ:①新しい時代の働き方 ②文化と伝統) ディスカッション成果の共有会 歓迎会準備 内閣府副大臣主催 歓迎会 ・島津淳内閣府副大臣あいさつ ・両国青年代表団 文化紹介 等	東京
11月6日 (木)	9:00-10:30 10:30 10:30-10:55 11:00-11:30 12:00-13:00 13:00-14:00 14:00-16:30 16:30-17:00 18:00-20:00	バス移動 (東京→埼玉) 【11/6-8 埼玉プログラム】 埼玉県県庁訪問 青少年課より埼玉県の説明 堀光敦史埼玉県副県知事表敬訪問 昼食 (別所沼会館) バス移動 <テーマ別施設訪問> テーマ:新しい時代の働き方 石坂産業株式会社訪問 ホテルへバス移動 歓迎会 (川越プリンスホテル) ・島村克己埼玉県県民生活部県民局長 歓迎あいさつ ・森田初恵川越市長 来賓あいさつ ・両国青年団 文化紹介 等	埼玉

月日	時間	行動日程	滞在都市
11月7日 (金)	10:00-12:00 12:30-13:30 14:30-17:45 18:00-20:30	川越市グリーンツーリズム拠点施設訪問、地元農業・食文化体験 昼食（川島食堂） <テーマ別施設訪問> テーマ：文化と伝統 川越市内散策/川越市文化創造インキュベーション施設（コエトコ）訪問 ・小江戸蔵里にて懇親会及びグループ毎に中間発表	
11月8日 (土)	9:30-10:30 11:30-14:45 15:00 18:00 20:40 23:50 15:00 17:00-17:30	金笛しょうゆパーク訪問 ららぽーと富士見訪問 昼食、地場スーパー（YAOKO）見学 <中国参加青年> バス移動 成田空港着 東京（成田）発（CA146） 杭州着 <日本参加青年> バス移動（埼玉→東京） オリエンテーション（都市センターホテル）	埼玉 ↓ 東京 成田 ↓ 杭州

訪問先等一覧

11月5日

プログラム	株式会社パソナJOB HUB訪問
所在地	東京都
主たる面会者	南部真希也 株式会社パソナグループ取締役副社長・執行役員 田部井聡子 株式会社パソナグループHR本部人財開発部 工藤大 株式会社パソナJOB HUB常務執行役員 加藤遼 株式会社パソナJOB HUB執行役員
概要	株式会社パソナグループは、「社会の問題点を解決する」を企業理念として1976年に創業した人材派遣や雇用インフラの創出、地方創生などを行う企業である。今回の訪問では、パソナグループの取組を紹介していただき、同社では、障がい者や外国籍、女性人財の活躍といったダイバーシティ、「自分のキャリアは自分で創る」をモットーとした人財育成ポリシー、AI教育などで自律的にキャリアを切り拓くりカレント教育を推進していることを学んだ。実際に社内では、障がい者が作った絵画が展示されていたり、パンが売られており、社内で買ってもらえる経験を障がい者に実感してもらうことでWell-beingにつながっていると感じた。その後、昼食を挟んで同社の事業についてお話いただいた。同社では、所属の自由度や場所・時間の自由度が高まる中で、柔軟な働き方をする人の活躍機会を提供しており、特にデジタルノマドの実現に関しては、個々人の求める働き方を叶えつつ日本の地方自治体が直面する人手不足や地域活性化の課題の解決にもつなげている点が画期的であると感じた。

11月6日

プログラム	堀光敦史埼玉県副知事表敬訪問
所在地	埼玉県
主たる面会者	堀光敦史 埼玉県副知事
概要	埼玉県副知事を表敬訪問し、副知事から中国青年団への温かい歓迎の言葉とともに、日中双方の青年交流が今後も長く発展していくことへの期待が述べられた。また、埼玉県が長年取り組んできた日中友好プログラムの紹介や、次世代の交流が地域の未来を支えるというお話もあり、若い世代による国際交流の価値と意義を改めて認識した。表敬訪問の最後には、庭園に出て紅葉の景色を背景に全体写真を撮影した。鮮やかな景観の中で自然と笑顔が生まれ、日中両青年の親しさが感じられるひとときとなった。短時間の訪問ではあったが、日中双方の相互理解と信頼関係の深化に寄与できるよう、今後の交流に一層真摯に取り組むたいと感じた。

プログラム	石坂産業株式会社訪問
所在地	埼玉県
概要	石坂産業株式会社を訪問し、「廃棄物処理」と「里山保全」の二つを軸にした循環型社会づくりの現場を視察した。資源再生工場では、騒音・臭気・埃への徹底した配慮がなされ、環境負荷を最小化する高度な産業廃棄物の処理工程を学んだ。また、見学通路には環境行動を促す多くのメッセージが掲示され、企業として社会の意識変容にも貢献している姿勢が印象的であった。隣接する三富今昔村では、八つのヤマ(エリア)から構成される里山を散策し、里山生態系を守る活動や多様な体験を通じて、自然と人間の共生のあり方を理解した。環境問題の解決は企業努力だけでなく、私たち一人一人の行動が必須であると痛感し、ごみの分別など日常の選択を見直す必要性を強く感じた。

11月7日

プログラム	川越市グリーンツーリズム拠点施設訪問、地元農業・食文化体験
所在地	埼玉県
主たる面会者	青野剛士 川越市グリーンツーリズム拠点施設 所長 伊藤昌二 川越市農政課
概要	川越市の農業と観光の融合について御紹介いただいた。川越は「小江戸」として知られ、かつては農産物を船で東京へ運んでいた農業の盛んな地域であることを学んだ。当施設は1989年に「農業ふれあいセンター」として開設され、2022年に改装後は、農業を観光資源とした体験事業を実施していることを伺った。続いて、さつまいもを始めとし、里芋、大根の収穫方法を御説明いただき、日本・中国青年全員で収穫体験を行った。農業の魅力や、都市近郊での農業の可能性について学ぶことができた。また、焼き芋の試食会では、安納黄金と栗かぐやの2種類を試食し、味の違いを楽しんだ。特に、中国青年が収穫体験、試食会と終始和やかに楽しんでいた様子が印象的であった。

プログラム	川越市文化創造インキュベーション施設(コエトコ)
所在地	埼玉県
主たる面会者	佐藤光 川越市文化創造インキュベーション施設 チーフコーディネーター
概要	「新しい時代の働き方・生き方」について講演をいただき、AIの進展による職業構造の変化によって急速に変化する社会の中で、私たちがどのように生きていくべきか、そして自分の“あり方(Being)”を軸に人生を築くことの大切さを学んだ。また、企業や組織の枠を越えて新たな価値を創造する「越境人材」という考え方や二拠点居住など、柔軟で多様な働き方についてもお話しいただいた。コミュニティの多様性が人生の豊かさにつながるという考え方が非常に印象的であった。講演後は、旧川越織物市場・旧栄養食配給所を改修したコエトコの施設見学を行った。地域の歴史と新しい価値創造が融合した取組であることを学んだ。

11月8日

プログラム	金笛しょうゆパーク訪問
所在地	埼玉県
主たる面会者	笛木吉五郎 十二代目当主・代表取締役社長
概要	施設について紹介をいただいた後、現存で二番目に古い蔵、杉で出来た木の桶、最も古い蔵の順に見学させていただいた。笛木醤油では、埼玉県産の小麦を100%使用しており、江戸時代は近くの川から江戸に出荷していたという。こうした地理的要因で醤油製造が発展した。木の桶を使って作られている醤油は全体の1%であり、木の桶を作る職人も減っていると伺ったのが印象的だった。伝統的な醤油作りを後世に残すためには醤油作りそのものだけでなく木の桶を作る職人など関係する産業も同時に守っていかなければならないと感じた。

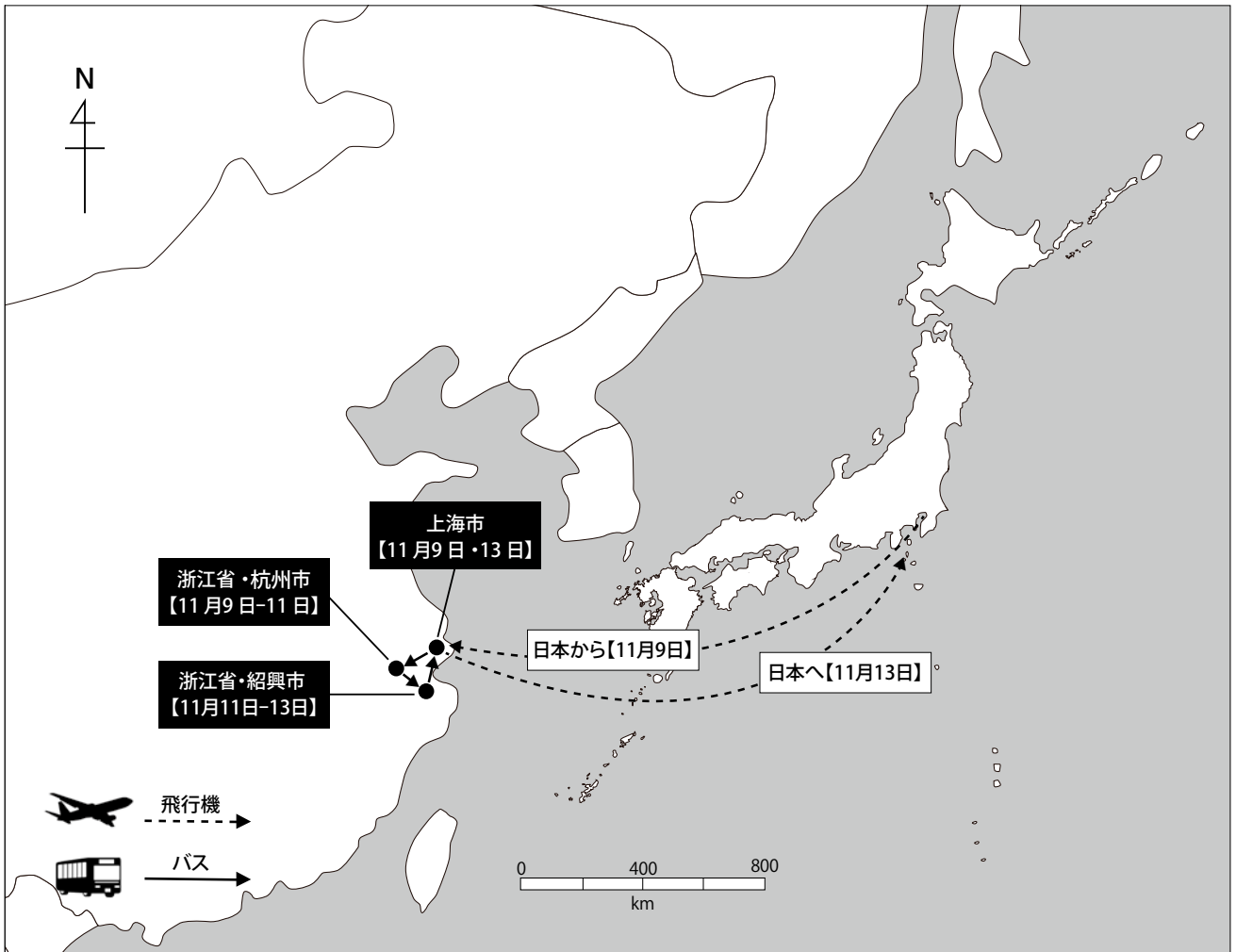
第4章

中国プログラム【杭州・紹興】

- 行動地図
- 行動記録
- 訪問先等一覧



行動地図



行 動 記 録

月日	時間	行動日程	滞在都市
11月9日 (日)	8:40 11:05 12:20-15:30 16:00-16:45 17:30-18:00 18:00-20:10	【11/9-13 中国プログラム】 【11/9-11 浙江プログラム】 <日本参加青年> 東京（羽田）発（MU576） 上海着 バス移動（上海→杭州）、昼食 <日本参加青年・中国参加青年> オリエンテーション 浙江省幹部への表敬訪問 ※団長・副団長・渉外のみ 浙江省青年連合会主催歓迎会	東京 ↓ 上海 ↓ 杭州
11月10日 (月)	9:25-12:20 12:20-13:10 14:30-15:10 16:00-16:30 17:30-18:30 19:30-20:30	浙江工商大学訪問 <日中代表ユースフォーラム> グローバル文明イニシアティブ国際青年フォーラム ・オープニングパフォーマンス ・挨拶 ・基調講演 ・パフォーマンス ・グループディスカッション ・グループ発表 ・日中青年合唱「蛍の光」 昼食 杭州人工知能タウン視察 デジタルノマド交流ラウンジ視察 夕食 西湖夜間遊覧船体験	
11月11日 (火)	9:20-10:50 12:00-14:30 15:00-17:30 18:30-20:00	【11/11-13 紹興プログラム】 中国シルク博物館視察 ・絞り染め体験" バス移動（杭州→紹興） 昼食 浙江一景エコ牧場視察 ・農業収穫体験 ・乳製品試食 夕食	↓ 紹興
11月12日 (水)	9:40-11:30 12:00-13:00 13:40-15:00 16:30-18:00 18:30-19:30	安昌古鎮訪問 昼食 魯迅故里訪問 中国プログラム修了式 ・日中両団長挨拶 ・ディスカッション ・成果発表 ・記念撮影 夕食	↓

月日	時間	行動日程	滞在都市
11月13日 (木)	8:50- 9:10	諸暨珍珠（真珠加工・販売店）見学	↓ 上海 ↓ 東京
	9:10- 9:20	バス移動	
	9:20-10:10	中国黄酒博物館見学、中国青年解散 ＜日本参加青年＞	
	10:10-13:10	バス移動（紹興→上海）	
	13:20-14:00	在上海日本国総領事館表敬訪問 ・団長挨拶 ・日本参加青年代表挨拶 ・大使による中国事情を含む講演 ・感想共有及び質疑応答 ・記念撮影	
	15:10	上海浦東国際空港着	
	17:25	上海発（MU575）	
	20:50	東京（羽田）着	

訪問先等一覧

11月9日

プログラム	浙江省青年連合会主催歓迎会
所在地	杭州市(杭州之江飯店)
主たる面会者	李蓮萍 浙江省青年連合会主席 邢博 浙江省青年連合会秘書長
概要	初めに李蓮萍浙江省青年連合会主席より歓迎の挨拶と浙江省に関するお話を伺った。浙江省の急速なデジタル化と悠久の歴史を実際を感じてほしいとのメッセージが述べられた。その後、中国青年団の黄英鋒団長、日本青年団の伊藤信団長の御挨拶の後乾杯。中国青年団は楽曲「青花瓷」に合わせてダンスや歌唱を、日本青年団は「上を向いて歩こう」、中国の楽曲「朋友」の歌唱を披露した。「朋友」の歌唱では中国青年も日本青年と共に歌い、国境を越えて同じ歌を共有できたことで、会場に一体感が生まれた点が印象的だった。

11月10日

プログラム	日中代表ユースフォーラム グローバル文明イニシアティブ国際青年フォーラム
所在地	杭州市(浙江工商大学)
主たる面会者	江静 浙江工商大学東方言語と哲学学院院长 姚玉粼 浙江省青連委員、湖州真鹿湖筆有限公司総経理
概要	大学キャンパスの施設を会場にして中国側の基調講演、日中双方のパフォーマンス、グループディスカッション及び発表等が行われた。基調講演では、江静氏から日本と中国の交流の歴史について、茶を日本にもたらした徐福を例に御講演いただいた。日中の文化交流は一方的ではなく双方向のものであると強調され、それは現在の中国の「萌」や「達人」といった日本の影響を受けた言葉にも表れている。その後、姚玉粼氏から湖州筆の伝統の残し方について御講演いただいた。長い制作工程があることから時代遅れのレッテルが貼られることがあっても、ライブコマースやAI技術の活用など時代の進歩に伴って柔軟に伝統技術を残そうと努力されていることが伺えた。日中間の人的、文化的交流は古来からの歴史の系譜を受け継ぐものであり、この事業もそうした歴史の中にあるのだということ強く実感した。

プログラム	杭州人工知能タウン視察
所在地	杭州市
概要	杭州人工知能タウンは、杭州未来科技域という国家クラスのエリア内に位置し、アリババ本社や浙江大学を中心に発展している。ここでは、主に人工知能(AI)を用いた最新技術について御紹介いただいた。具体的には、物流倉庫の仕分けや配送、義手、仮想現実・拡張現実、遠隔手術などの技術について実物を目の当たりにした。中国では、あらゆる分野でAIが使われており、日本よりも生活に欠かせないものとなっている。近未来の生活がAIの急速な普及によって大きく変化することに興味を持った。

11月10日

プログラム	デジタルノマド交流ラウンジ視察
所在地	杭州市
主たる面会者	虞洋 余抗区政治協商会議区委員会委員
概要	このラウンジでは、仕事や会議ができるオフィスや利用者同士が交流できる催しの企画など、デジタルノマドを行う者が活動しやすい場を提供している。こうした空間の特徴について御紹介いただいた。交流の場を設けることで、利用者は同世代の横のつながりだけでなく他世代との縦のつながりも作ることができるという。特に、デジタルノマドをする若者を支援するために需要を把握し、この交流ラウンジを1年未満で完成させた話には驚いた。

11月11日

プログラム	中国シルク博物館視察
所在地	杭州市
概要	中国シルク博物館を訪問し、シルクロードと絹文化の発展について、実物資料と展示を通じて学んだ。シルク文化は、蚕の飼育に適した湿潤な南方でのみ発達したと考えられてきたが、降水量の少ない北方でも良好な状態の絹織物が発掘されたことから、南北双方で同文化が発達してきたことが判明したという。このようなシルク文化の地域的広がりを踏まえつつ、漢代の張騫による陸路の開拓や、鄭和の航海による交流拡大など、歴史の流れの中でシルクロードが果たした役割を体系的に理解した。染織館では、織機模型や実演を通して製造工程を学び、実際に染色（絞り染め）体験も行った。視察全体を通じて、シルクの美しさは偶然ではなく、長い時間をかけて受け継がれてきた知恵と技術の積み重ねによって生まれるものだと思えて体感し、その文化的価値の重さを深く感じた。

プログラム	浙江一景エコ牧場視察
所在地	紹興市
主たる面会者	李一清 社長
概要	浙江一景エコ牧場は、「酪農」「糞尿の資源化」「野菜栽培」「観光・体験・教育」を組み合わせた、畜産と農業の循環型複合施設である。訪問に際しては、4,000頭以上の乳牛を飼育する牧場内で、牛糞を再利用したベッド、ストレス軽減に寄与する自動ブラシ、大規模搾乳設備など、乳牛の健康管理と生産効率向上を両立させた飼育環境を視察した。また、真夏には室温が35℃を超える地域特性を踏まえ、牛舎をあえて暗く保つなど、高温多湿に対応した構造についても説明を受けた。視察後には、牧場で生産された乳製品の試飲や野菜収穫の体験を通じて、飼育から加工、農産物生産までが循環体系として運用されていることを実感した。自然環境と産業活動を一体的に捉えた持続可能な農業のあり方について、多くの学びを得る機会となった。

11月12日

プログラム	安昌古鎮訪問
所在地	紹興市
概要	安昌古鎮は、紹興市の運河沿いに約2kmにわたって昔ながらの街並みが保全されている観光地区である。名物となっている餛飩は露店で作った手作りのものが売られており、日本青年と中国青年1名ずつが制作体験をした。運河沿いの露店では、鳥や豚の顔や鼻など肉製品を中心に販売されていた。また、一角では醤油づくりが行われており中国でも一部、伝統的な作り方が受け継がれているということであった。日本プログラムでも醤油工場を訪れたが、ここでも伝統を受け継ぐ重要性とともにその難しさを垣間見た。

プログラム	魯迅故里訪問
所在地	紹興市
概要	魯迅故里は、中国の文豪・魯迅が17歳まで過ごした場所である。魯迅が過ごした当時の中国は暗い時代であったが、魯迅はそれでも希望を持って勉学に励んでいた様子がうかがえた。魯迅は医学を学ぶために日本に留学した経験があり、当時師事した藤野巖九郎先生の銅像があった。現在でも、藤野先生の出身地である福井県あわら市と紹興市は姉妹都市として結ばれている。故居の中には彫刻の意匠が見られ、魯迅が当時使っていたベッドも残されていた。中国青年は魯迅について当然のように基礎知識を有しており、魯迅は多くの中国人に尊敬されていた。こうした姿勢が、魯迅故里が現代にも残され多くの中国人が訪問していることに表れていると感じた。

11月13日

プログラム	中国黄酒博物館見学
所在地	紹興市
概要	中国黄酒博物館にて、紹興酒の誕生から現代に至るまでの歴史や文化について御紹介いただいた。館内には古くから運河を使って北方へ輸送されてきた紹興酒の流通の歴史や、外交の場での紹興酒の位置付けなど、多様な展示がなされていた。紹興酒の製造方法や酒を好んだ歴代の詩人たちの紹介を通して、紹興酒と中国文化がどのように発展してきたのかを学ぶことができた。また、実際に製造現場を見学し、仕込みや発酵の工程を間近で見る貴重な機会となった。紹興酒が地域の歴史と深く結びついている点が非常に興味深かった。

プログラム	在上海日本国総領事館表敬訪問
所在地	上海市
主たる面会者	岡田勝 総領事・大使 長谷川綾子 広報文化部長 神田将司 領事
概要	日本青年団の伊藤信団長及び青年代表から挨拶した後、岡田勝総領事・大使より、所管する浙江省や上海市の状況を踏まえた中国経済の現状と日系企業を取り巻く環境について御講演をいただいた。講演の中で「百聞は一見にしかず」という言葉が特に印象に残った。日本国内で中国に関する多くの情報を得ていても、実際に現地を訪れ、自分の目で見て肌で感じる中国はまったく異なる。今回の交流では、中国人青年の価値観や考え方など、対面交流だからこそ得られる生きた情報に触れることができた。こうした学びは、今後の日中交流を更に深めていく上で大きな意義を持つと感じた。